

新らしい思想、社會、人物等の支配的な傾向をきはだてて明瞭に浮彫してゐる。この書のなかの主要な三代の小説は、だいたい、その時代の特徴的な性格を鮮明につたへるものであり、また、おほくの讀者の支持をえ、とくに明治、大正のそれは、ながく後世に残るすぐれた作品のみである。だが、はたして、そのなかの女性が、その當時の女性のどの部分の眞實をどの程度にとらへたかは、おほくの文學的、歴史的批判を要する。私はその批判の、だいたいの感想は、いろいろの箇所をつたへようとした。しかし、じつさいの小説をよまぬひには、うけとりがたい箇所もすくなくないとおもふ。それ故に、この書を通じて、この書のなかに現はれる小説を批判的によまれることをも望む。

小説とは、すべて歴史的なものである、といふ意味は、どんな小説も、そのうまれた時代を超越することも、その時代以前にさかのぼることも、じつさいには不可能だといふことである。

すべての文學作品、小説は、その時代現實の特徴を織りこんだものであり、とくに傑作とは、前述のやうに、時代の特徴を鮮明にとらへ、それを固定し、終結したものであるのではなく、過去からつたはり、つぎの時代へ延びゆくかたちで、つまり、發展的にゑがかれてゐる。時代現實のな

かの葛藤や矛盾をとらへ、その葛藤のなかで滅びゆくものと、さかえゆくものとをたゞしく歴史の必然に沿ふてとらへるとき、その作者の觀察の偉大さはかゞやくのである。

以上のやうな、小説と現實とのへだたりと、かゝはりあひの微妙さをすこしく説いたのは、たんに、この書の成立の辯としてより、むしろ、小説が安易に娯樂や趣味としてしかよまれないことに對するひとつの警告ともしたいためである。小説は、よむひとの思想、現實認識の如何によつて、じつに、複雑なみかたでよみ散らされる。そして、その知識や人生體驗のふかさによつて、小説のおもしろさ、現實性のあるなしもちがつてくる。人生をよりふかく知らんとし、眞實にたいする情熱と、ひろくたかい知識なくしては、小説はほんたうの精神の糧とはなりえないのである。

この書の叙述においても、ばあひに應じて小説の解釋に濃淡がある。それは、この書が、小説を單に批評したのでなく、ひとつの女性史的組みたてをもくろんだからである。現實が複雑であるごとく、小説の世界も複雑である。だから、この書の解釋だけで、おのおのの小説がわりきれ

るのではない。唯、この書のなかの解釋と筋書は、女性の歴史的発展とのかゝはりあひを中心としたものであり、同時に、各時代の女性が、眞に女性として前進するすがたに重心を求めたので、ときによつて、小説が單純にすぎる位簡明にとらへられてゐるところもある。それゆゑ、いつそう、この書のなかで注目した女性のあらはれる作品は、つとめて熟讀されたいとおもふ。そして、私は、この書の解釋が、女性の小説讀書の方向に、いちおうの基準をあたへることになりうることを望んだ。また、各作品の消化の方法についても、ひとつの指針となりうるやうに、つまり、小説の複雑さを單純化し、單純化を複雑化し、ともかく、豊富な世界の觀察に應じえるやうな傾向の發展にもつくしたかつた。はたして、この貪婪な意圖は充たされたか、いなかは識者の批判を待つばかりである。

たゞ、小説作品をえらびだし、それを素材として女性思想、倫理史たらしめようとする企ては、いままで試みられた例を寡聞にして知らない。多分、この書は、文學作品を材料として、女性の發展史的經過を描かうとした點で稀有なものだと信ずる。この稀有な試みは、たんなる女性思想史とかはつた、そして、そこには、かんじえられぬ素材のたしかさに依頼したところに特徴があ

る。實感をたかめうる素材は、各時代の代表的なもので、容易に讀者の手にもはり易い。また、女性史に類するものは、すくなからずつくられて居り、その面に造詣のない私の容易になしうるところでもない。そのやうな考へから試みた、このさゝやかな企ては、しかし、小説といふものもつ複雑な條件によつて、組みたてと系統づけは單純ではありえなかつた。しかし、ともかく、あへてこれをやりをへた。といふのは、この企ての底にわだかまる、こんにちの女性問題にたいする私の關心がさうさせたのである。

こんにちの國家における女性の劃期的な重要性、その社會的評價の急激な變化が、まづ關心の主要なテーマとなり、つきには、今日の女性における未曾有の發展的性格が、過去女性のいかなる苦惱おほき忍従と、犠牲的なたゞかひの努力の結晶であつたか、そのむくひ少き努力をいかにうけつぎ、うけつたへることによつて、今日の發展性が築きあげられたかを描きたかつたからである。それを描くことによつて、さらに女性の發展性をたかめ、その發展の障壁を除きさるすがとなすためであつた。

この書のなかの、女性のさまざまな姿態、性格のそれぞれは、こんにちの女性のなかにいかや

(出文協承認)
(あ240147)

三代の女性



昭和十七年十月七日初版印刷
昭和十七年十月十二日初版發行

(四五〇〇)

⊕ 定價二四二〇錢

著者 矢崎 弾

發行者 高橋 徳有

印刷者 綾部 喜久二

東京市京橋區銀座二丁目三

若い人社

文協會員番號 一四四〇二〇
電話京橋(56)三九九〇番
振替口座東京 一三九三六四番

東京市神田區淡路町二丁目九

日本出版配給株式會社

配給元

(東38東)

うにうけつたへられてゐるだらうか。それにたいする、いつぱんの評價は？ 發展はかならず低滯をともなふといふ、歴史の法則と、今日の發展性の歴史的過程にたいする認識とをふかめうるならば、その發展的性格をさらに擴充することが可能だといふ考へにしたがつて私は書いた。私は、また、これをはじめとして、女性の歴史的發展にかんする企てをさらにふかめ、より充實した努力を結晶させゆくことをちかひたい。

昭和十七年七月

著者

1885
—
"

945
179

終

